

## CTを用いた大腸がん検診(大腸 CT)

大腸 CT 検査(CT-コロノグラフィ)は、マルチスライス CT を用いて、内視鏡を挿入することなく、大腸内視鏡と同等の画像を得る新しい検査方法です。当院では 2017 年 10 月に世界最新鋭のマルチスライス CT が導入され、検査を受ける皆様にとって優しく、また、高画質・低被ばくで精度の高い検査が可能となりました。特に大腸内視鏡検査が苦手な方におすすめする検査です。



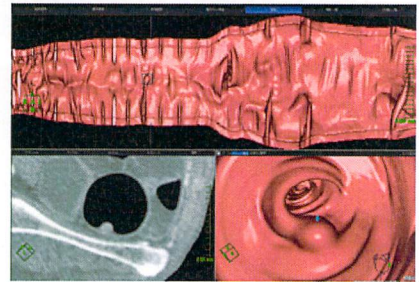
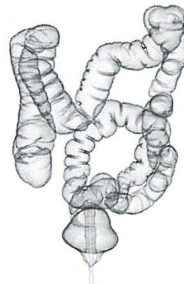
IQon Spectral CT (Philips 社)

### 検査の特徴

大腸がんのスクリーニング検査として注目され、全国的にも普及されつつある検査です。内視鏡検査と違い、カメラを大腸深部に挿入する必要はありません。そのため痛みが極めて少なく、また、検査は短時間で終了するため、検査を受ける方の受容性が高い事が大きな特徴です。病変の大きさが正確に分かり、10mm 以上のポリープでは 95%以上の精度で発見が可能といわれています。

### メリット

- 検査時間が短い
- 苦痛が少ない
- 下剤や腸管洗浄剤の服用量が少ない
- 周辺の臓器との関係がわかる
- ポリープの大きさや場所が正確にわかる



### デメリット

- 5mm 以下のポリープやまた平坦な病変の発見が内視鏡よりやや劣る
- 大腸の組織をとって調べることができないため、内視鏡での組織検査が必要となる
- 最低限の医療被ばくがある

### 検査の方法

1. 大腸内視鏡検査と同様、腸の中をカラッポにする必要があります。検査前日の夜に 10ml、検査当日の朝に造影剤の入った 1,200ml の下剤を飲んでいただきます。
2. 検査は、5~6 mm 程度のチューブをお尻の先に挿入して炭酸ガスを注入し、あお向け・うつ伏せの 2 体位で撮影をします。
3. 撮影は 10 分程度で終了します。
4. 使用する炭酸ガスは痛みを感じないように圧力をコントロールして注入し、検査後は速やかに吸収されるため、おなかの張った感じが残りませんので、ご安心ください。

